

会員報告

秋の京都・大阪合同交流会

I・Y

10月11日に大阪・京都合同交流会、東映太秦映画村に行ってきました。映画村に行けるって事、初めて会う方と交流ができるという事でワクワクしていました。それだけでなく私は高校卒業後から事故するまで専門学校と就職で京都で生活していたのでなおワクワクしていました。三田駅から JR で京都駅まで行き、乗り継ぎで目的駅の太秦駅まで向かいました。向かっている途中に専門学校の看板が見えた時はなぜかテンションが上がりました。(笑)そして専門学校の周りも変わっていて不思議な感覚になりました。

テンションもあがったところで太秦駅に着き、大阪の島本さんと合流し東映太秦映画村に向かいました。列に並ぼうとすると係員の方が車いすの方はこちらと誘導してくださり、介助者にチケットを買ってきてもらいすぐに入ることが出来ました。入ってすぐ忍者の置物があり記念に一枚。



立体迷路忍者の砦、からくり忍者屋敷など映画村には忍者がいっぱいいるのです。そして集合場所である中央広場に向かいます。初めての方、久しぶりの方と顔を合わせ、スターズカフェ CHANBARA で九条ネギラーメンとチャーハンを食べました。九条ネギの食感と旨さはたまらなく、京都に来たんだと改めて実感しました。

食べてからは自由行動で御利益大明神を見に行きました。これはある時間になるとゆっくり流れている滝の勢いが激しくなり、奥の木が高くなりそこから御利益大明神が出てくるというもの

で、体調よく生活が送れますようにとこっそりお願いしておきました。

その後は長屋を見に行きました。一軒一軒丁寧な作りで感動し、数が多く圧倒されました。14時に関係者の方が撮影の裏話やエピソードなどを話されるということで聞きに行きました。1つ目に門が入った撮影するときはなるべく門を開けずにするそうで、これは門の後ろが何もないためだそうで門を開けないといけないシーンは後ろが見えないようにカメラや向きを調整されるということです。2つ目に壁が移るシーンではカメラの位置を上から撮ったりして外の風景が移らないようにされるそうです。話の中で私が一番驚いたことはすぐ横で普通に電車が走っているということです。そのため電車が走るときは撮影を中止して通り過ぎてから撮影を始めるということをするそうです。め組の家も見ました。その暴れん坊將軍(徳川吉宗)のドラマに出てくる、江戸町火消しの1つ「め組」です。町中に舞妓さんや袴を着た人がたくさんいて雰囲気もそうですし実際話をすると映画村に来たと感じました。

今回この映画村に参加できて京都、大阪頸損の方と交流出来ました。これからも京都、大阪頸損の方たちと交流を深めていきたいと思いました。今回このような企画に呼んでいただきありがとうございました。



参加者全員で記念撮影